

＜自然の乾燥花＞春から夏の色鮮やかな賑わいが遠い昔のような気さえする 1月のビオトープです。敷き詰められていた落ち葉も風に吹き飛ばされてしまい枯れ木が目立ちます。

ところがウツギはすっかり葉を落としたものの 8月の中ころに付けていた実の姿をまだそっくり残しています。ウツギほどではありませんが年の



＜タマアジサイの花 : No.14 参照＞



＜タマアジサイの乾燥花＞

瀬まで姿を留めていたのがタマアジサイです。写真のように人の手を全く加えないで見事に乾燥花（ドライ・フラワー）になっていました。ヤマアジサイの乾燥花もあちこちにありましたが、タマアジサイより凝っていて花(正しくはガク)の筋だけが残った姿です。葉脈だけが残った枯れ葉を“透かし葉”と言いますからこれはヤマアジサイの“透かし花”ですね。



＜ヤマアジサイの“透かし花”＞



＜カキツバタの実＞

＜深海生物＞昨年の6月にガマの間に姿を現した

カキツバタの花を紹介しました。その後目立つことなくガマの緑の中で実を付けていたのでしょう。ガマが枯れた晩秋には 3～4 cm ほどある黒くて堅い実が目につきました。さらに冬になり鞘が開いて種を覗かせているのが左の写真です。

ちょっと愛嬌のある姿をしていて深海魚か SF の宇宙生物を想像させます。



＜アラカシのどんぐり＞

＜どんぐりころころ＞ビオトープの周りの林には背の高い常緑樹もあります。その一つがシラカシで今もどんぐりを沢山付けています。クヌギやコナラなど落葉樹のどんぐりはとっくに地面に落ちたり「お池にはまって」しまっています。これに比べてアラカシのどんぐりは緑の葉に包まれてヌクヌクとしているように見えます。

メジロたちもこの木に集まって“チチチチチ……”と鳴いています。きっと風を避けられて居心地がいいのでしょう。＜ハクセキレイのカップル : ビオトープに接する道路＞→

＜元気一杯＞“チチッ、チチッ”と鳴きながら飛んでいるのはハクセキレイです。寒い中でも元気一杯で人の歩く前を早や足で滑るように進みます。



(文と写真 : 松本正勝)